

## 長岡兄弟鳩舎の歩み（鳩歴60年）

- ☛1961年（昭和36年）満12歳、小学校6年生の長男、長岡良明が一代目、第1期として在来ドイツ系鳩を北海道滝川市で飼い始める。初めて2羽雄♂雌♀を新聞配達で稼いだお金で買う。
- ☛1962年（昭和37年）4月に入り中学1年生となった良明は、高校受験のため、実弟で次男の孝明に二代目、第2期を譲る。
- ☛1965年（昭和40年）四男、和敬が10歳、小学5年生の時に二代目、孝明より、ドイツ系鳩の飼育管理等を譲られ、事実上三代目、第3期に入る。中学生時、新聞配達して、在来新ドイツ系鳩の本部・大阪府岸和田市の西田鳥獣店より、数羽、新ドイツ系鳩を数年かけて買う。
- ☛1974年（昭和49年）三代目和敬が、高校を卒業し、札幌市へ就職するため、ドイツ系鳩の飼育を一旦止める。断腸の思いだった。
- ☛1978年（昭和53年）2月彫刻作りの修業に入って1ヶ月後の日曜日、会社の車を借りて、大阪府岸和田市の西田鳥獣店、西田幸男鳩舎へ、1人で行く。幼い時から念願だった在来新ドイツ系鳩を2羽買い、修業でお世話になっている社長さんの工場内で実兄（二代目）と私（三代目）が協力して、鳩舎を作り、再び鳩飼いを始める。（第4期目）
- ☛同年、大阪府豊中市の西浜義清鳩舎と、三重県四日市市の当時「北伊勢ドイツ鳩保存会」などと交流を重ねて行く。
- ☛1979年（昭和54年）北海道滝川市の実家で一代目、長岡良明が立派で大きい鳩舎を手作りで作ったため、愛知県岡崎市で飼育していたドイツ系鳩を全部兄の希望により送った。第5期の始まりとなり、その後、数年かけて300羽近くまで増える。
- ☛1983年（昭和58年）三代目の和敬が愛知県岡崎市で、独立する。
- ☛1987年（昭和62年）一代目の良明が数年前よりレース鳩を始めたため、ドイツ系鳩の目や目ぶち、体や体形や子供を育てられないなど、病気も含めて、嫌気したことから、再び三代目の和敬の方で飼育することになった。そのため数度に渡り、ドイツ系鳩が送られて来た。そのたびごと鳩舎を増やして行く。その間、岡崎市内の角谷光夫鳩舎や伊豫田英志鳩舎を知り交流していく。その後、4度ほどの鳩盗難に遭い、中断した事もあるが、2003年（平成15年）中島靖夫鳩舎より生後3ヶ月の「秀吉号」を譲り受ける。第6期の始まりだ。盗難にも負けず、なんとか好きな鳩作りをして来た。
- ☛2012年（平成24年）愛知ドイツ鳩同好会に入る。
- ☛2013年（平成25年）には、埼玉県の関根和人鳩舎<sup>まほろし</sup>に行き、これまでに見た事もないような幻の新ドイツ系鳩を目にしてショックを受ける。その後、同鳩舎と、栃木県の矢島藤男鳩舎から、最高種鳩を導入し、第7期目に入る。
- ☛2015年（平成27年）2月、関東ドイツ鳩協会に入る。（本部・群馬県）
- ☛2018年（平成31年）10月、日本観賞鳩会に入る。（本部・福島県）
- ☛2018年（平成31年）11月、東海ドイツ鳩同好会に入る。（本部・三重県）
- ☛2021年（令和3年）1961年（昭和36年）一代目がドイツ系鳩を飼い始めて今年で60年を迎え、記念として「長岡兄弟鳩舎60年の歩み」本を出版する。